



ホスピス病棟開設 30 周年記念記事

「ホスピス 30 周年にあたって」



名誉院長

やまがた けんじ
山形 謙二 医師

30年前の1992年6月2日、当院のホスピス・緩和ケア病棟が開設されました。兵庫県では初、関西では淀川キリスト教病院に次いで二番目でした。この30年の歳月がもたらした日本のホスピス・緩和ケアをめぐる医療界の変化を見ると、実に感慨深いものがあります。

私が留学した1970年代は、米国の医療界において、死に対する態度やがん告知の考え方が大きく変貌を遂げた時期でした。歴史家フィリップ・アリエスはその著書『死を前にした人間』の中

でこう述べています。「米国では、数年前（注：1970年頃）から死に対する態度が全く逆転する事態が生じた。この事態に一人の女性が重要な役割を果たしたのである。この人物こそ、エリザベス・キューブラー・ロスであり、1969年に出版された彼女の優れた書物 On Death and Dying（邦訳「死ぬ瞬間」）は、アメリカとイギリスにおいて多大な衝撃を与え、百万部以上も販売されたのである」。この彼女の書物は、米国の医学生時代に履修した「精神医学序論」の参考書に指定されており、これが私の最初の「死の臨床」との出会いでした。彼女の先駆的な働きにより米国では「死の臨床」が広く普及・認知されるようになりさらに「がん告知」が当たり前になったのでした。

がんと告知しない医療との遭遇でもありました。医療界の「がん非告知主義」ががん患者さんと家族・医療者との大きな壁となって立ちはだかつておりました。そのような中で、私はがん患者さんに対し「ご自分の病気をどのように理解されていますか？」と問いかけてみました。そこでの発見は、患者さんたちは「自分のがんに勘づいている」という事実でした。患者さんも家族も医療者もみんなが知っているのに、がんの話は一切できない状況の中で、孤独の内に死と闘っている患者さんの姿がありました。

そのような日本の医療界で、「死の臨床研究会」の創設者・河野博臣先生、浜松聖隷ホスピス初代所長・原義雄先生そして淀川キリスト教病院ホスピスの創設者・柏木哲夫先生などの先駆的お働きは大きな励ましとなりました。これらの偉大な先生方に学ばせていただきながら、1992年のホスピス病棟開設に至ったのでした。

日本への帰国

1980年末、帰国した私は、神戸アドベンチスト病院に着任しました。日本の医療との出会いは、死を避ける医療、そして

ホスピス開設から30年

1973年11月
神戸アドベンチスト病院として現在の地へ新築移転（45床）



1993年10月
緩和ケア病棟認可（兵庫県で最初の厚生省認可施設）



2004年9月
緩和ケア病棟を10床→21床

2012年7月 ホスピス開設20周年記念式典



1992年6月
緩和ケア病棟（8床）開設



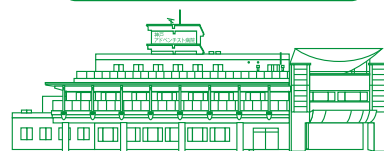
2007年7月 ホスピス開設15周年記念式典



2000年9月
緩和ケア病棟を8床から10床に増床

1967年1月
神戸市葺合区（現中央区）に神戸アドベンチスト診療所を開設

2022年7月
ホスピス開設30周年記念式典



取材されました。

また全国的な組織として先駆的な「日本死の臨床研究会」に続いて、「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会（現日本ホスピス緩和ケア協会）」、そして「日本緩和医療学会」などが組織され、日本におけるホスピス緩和ケアの輪は着実に広がっていきました。

「ホスピス・緩和ケア」の30年

開設から30年が経ち、当初は全く予想もできなかったほどの急激な変化が起きました。がん告知は一般的になり、ホスピス・緩和ケアは医療・医学の専門の一分野として認知されるようになりました。

昨年11月の報告では、全国のホスピス緩和ケア病棟は359施設、病床数は9464床となっています。ホスピス緩和医療学の医学的知見も豊富になり、多くの医学的エビデンスに基づいたホスピス医療がなされるようになりました。

ホスピス・緩和ケアの現代医療への貢献の一つは、医療における全人的視点を提起したことにあると言ってよいでしょう。全人的視点とは、人間を全人的存在すなわち身体的・精神的・社会的そしてスピリチュアルな存在として捉えることです。私たちが患者さんたちに全人的に関わるということは、逆に私たちの全人性が要求されます。オクスフォード緩和医療学は「緩和ケアとは全人的ケアである。それは患者の全人（身体・心・魂）が

ケアの対象であるばかりではなく、ケアする者の全人が関わるという意味においてである。卓越した緩和ケアとは、人間関係という媒体を通してなされるケアなのである」と述べています。

ホスピスのこころ

現代のホスピス・緩和医療の陥りやすい危険性は、症状緩和技術に偏りがちな傾向と言えるかもしれません。その中で忘れてはならない大切なものは「ホスピスのこころ」です。それは、本質的な意味において患者さんの自己実現を援助するケア、言い換えれば、患者さんにとって一番大切なものを尊重しその人らしく生きることを援助するケアといえるでしょう。ホスピスのこころは、現代ホスピスの先駆者シシリー・ソンドーズの次の言葉に凝縮されていると言ってよいでしょう。「あなたがほかならぬあなただからこそ大切なのです。生命の最後の瞬間まで価値あるあなたなのですから。私たちは、あなたが安らかに死ぬのをお手伝いするだけではなく、死ぬまであなたらしく生きるために、できるだけ力になりたいのです。」

30年の歩みを振り返りつつ、そしてホスピスに課せられた現代的テーマにも取り組みながら、次なるステップへ歩みを進めていきたいと決意を新たにしております。



【心臓血管外科外来の紹介】

ハートチーム始動



～多角的な患者サポート体制～

6月より、月1回の心臓血管外科外来を開設いたしました。心臓は単純な拍動を繰り返す臓器ではありますが、電気・血管・ホルモン・自律神経など多くのメカニズムで体の活動をささえています。病で乱れたこれらをいろいろな角度からバランスよく治療することが大切です。また、循環器疾患は、成人病・生活習慣病であり、1回治療すれば終わりというものではありません。継続的な診療、再発予防が必要です。当院では循環器疾患の患者様に対して、循環器内科および心臓血管外科の医師をはじめ、看護師・臨床工学技士・臨床検査技師・放射線技師・薬剤師・栄養士・理学療法士など多職種の特任者が集まる「ハートチーム」により、患者様を第一に考えた治療を実施いたします。カンファレンスを通して情報を共有し、おひとりおひとりの患者様に適した治療を選択して参ります。そして私たちは、心臓・救急医療ではともすると失われがちな「心と心がふれあう医療」を実現したいと考えております。患者様が医療者に伝えたいこと、私たちが患者様を治療させて頂きたい気持ち、これらが触れ合う暖かみのある医療が私たちの理想であり、救急の現場でもこれを実践していこうと考えています。



【心臓血管外科】

診療日時：毎月 第1月曜bi 午後

担当医：坂口 太一 医師

専門分野 低侵襲手術（MICS）

兵庫医科大学主任教授/日本低侵襲心臓学会代表理事



【MICS とは】

低侵襲肋間開胸手術

肋骨切開をしないため術後

疼痛が軽く、早期回復、

縦隔炎が発生しません。多枝

バイパス手術をはじめ各種弁膜

疾患も可能です。

両側内橋動脈バイパスは世界でも

先進的な手術です。

チャプレンオフィス便り

「主よ。あなたの知恵で、さまざまな営みができ上がり、地は豊かに満ちあふれています。」

(詩編 104章24節 リビングバイブル)

梅雨が明ける頃、ある日を境に蝉しぐれが聞こえてきます。蝉の羽化の様子を時間を短縮した映像でご覧になったことがあると思います。生命の神秘を感じます。その前段階の幼虫の地下生活は3年から長いものでは17年にも及ぶそうです。成虫になって地上で過ごせる時間はそれと比較して大変短いものです。ひと月も生きれば長いほうではないでしょうか。蝉はその限られた期間に新しい命を生み、やるべきことをやり遂げます。小さな命が頑張っています。「朝からうるさいなあ」とか言わないようにしましょうね。

チャプレン 吉田浩行

毎日の食事で健康な身体と豊かな心を育む 簡単!おいしい! 菜食料理レシピ

<材料(4人分)>

- かぼちゃ …………… 150g
- なす …………… 1本
- パプリカ …… 1/2個
- カシューナッツ… 15粒ほど
- アスパラ………… 1束
- エリンギ… 1/2パック
- リンケッツ…… 小1缶
- ※大豆を加工したもので、当院ギフトショップでも販売しています。
- オリーブオイル………… 適量
- ピーナッツクリーム…大さじ2
- ポン酢………… 大さじ2



2022年4月2日放送
「サタデープラス」コーナー
「ひたすら試してランキング」
(全15種類)



三育フーズ株式会社

「夏野菜のさっぱりピーナッツクリーム炒め」

<つくり方>

- ① ピーナッツクリームとポン酢をボウルなどで混ぜ合わせる
- ② かぼちゃは1.5cmぐらいの厚さでカットして、水をふりラップをしてレンジで30秒ほど加熱する。
- ③ アスパラは下の固い部分をピーラーで剥き乱切りにする。エリンギはくし切りにする。
- ④ リンケッツ、茄子、赤パプリカはそれぞれ乱切りにする。
- ⑤ フライパンにオリーブオイルを入れそれぞれ焼き色がつくまで炒め(もしくは素揚げ)一旦取り出す。フライパンを洗い、カシューナッツは乾煎りする。
- ⑥ すべての材料を入れ、調味料を加えてさっと炒める。
(炒め過ぎるとポン酢酸味が飛んでしまうので注意)
- ⑦ 器に盛り付ける

Medical Report

2022年	1月	2月	3月	4月	5月
入院数(人)	193	194	217	194	217
外来数(人)	7,069	6,600	7,817	7,065	7,042
手術(全身麻酔)(件)	39	45	28	40	30
手術(全身麻酔以外)(件)	56	42	56	46	46
出生数(人)	40	36	42	37	42